

熊本商業高等学校 平成31年度学校評価表

1 学校目標

県教育委員会関係課から出されている「平成31年度教育指導の重点及び取り組みの方向」を基本に、本校の校訓「礼節」・「剛健」及び「反省十訓」を踏まえ、徳・知・体の調和の取れた全人教育をめざすとともに、これまでの本校教育の伝統を継承し、教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

2 本年度の目標

○豊かな人間性と健全な心身の育成

校訓である「礼節」・「剛健」を重んじ、他者を思いやる豊かな人権感覚を身に付けるとともに、校内外における集団生活のルールやマナーを体得した規範意識の高い生徒の育成に努める。

○学力の向上と進路指導の充実

確固とした進路目標を持ち、その実現のために自ら進んで学び学習する態度を育成し、学力向上に努めるとともに、個々に対応した進路指導の充実を図り、望ましい職業観や勤労観の育成に努める。

○地域社会の期待に応える特色ある学校づくり

特別活動を奨励し、部活動等に積極的に取り組む姿勢を育成し、学校の活性化に努めるとともに、学校周辺の環境清掃活動やボランティア活動に積極的に参加する姿勢の育成に努める。

○生徒を「伸ばす」教育活動の実践

熊本県の教職員像「認め、ほめ、励まし、伸ばす」にある「伸ばす」に力点を置き、教職員のスキルアップ、充実した学校組織の体制づくりを行い、教育活動の実践に努める。

【教育スローガン】

「日本一の商業高校へ ～志高く、恕と信頼の人づくり～」

3 自己総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校の教育目標 日々の教育活動 (教育スローガン) の達成に努める。	学年連絡会や運営委員会、各種行事において学校の諸活動の状況を確認する。	教科指導を中心に、生徒指導、進路指導等、学校の諸活動の工夫・改善を図り、教育目標を達成する。	各分掌が掲げる具体的目標の達成に向けた取り組み状況を確認し、必要に応じて指導助言を行う。	B	生徒を中心に据えた学校運営の進捗状況をほぼ毎週確認できた。また、生徒の指導、諸行事に係る諸課題の解決に協働で取り組むこともできた。
		「志」を高く持ち、他を思いやる「恕」の心と人と人をつなぐ「信頼」の心を持つ人材を育成する。	特別活動、部活動を含めた教育活動の全ての領域で「日本一の商業高校」の実現を図る。	規範意識の醸成と心の教育の推進を図るため、挨拶運動の徹底と「熊商人物傳」を活用し恕の精神を涵養する。	A	生徒の挨拶の励行は、来校者から高い評価を得ている。卒業生に熊商デパートの協賛等を通じて社会のルールとマナーを学び、販売実習のみならず学校生活においた実践できた。
	熊本県の商業高校の拠点校としての指導的役割を果たす。	全領域で学校活性化に向けた取組や組織の検証を行い、改善を図る。	キャリア教育の充実と商業高校としての専門性の深化を図る。学科のあり方や教育課程の検証に取り組む。	将来のスペシャリストの育成を図り、進路目標(就職・進学)達成に向けた指導の改善・充実に積極的に取り組む。	A	高校生の到達目標を超えた資格取得指導を通じてスペシャリスト育成ができた。新しい教育課程の編成についても、研修会に出向き情報収集を行い、教科ごとに協議を開始した。
	学校改革の視点から校務分掌、学校行事等を見直す。	職員に働き方に対する認識を深めさせる。	・行事の2週間前までには学年連絡会に提案できるように促し、各分掌の業務の効率化を図る。 ・部活動指導による時間外勤務の削減。	・各分掌間の連携 ・ファイル名のコード化 ・行事の精選 ・部活動指導の交代制を促進 ・週1回の部活動休息日の設定	B	教育活動全般に職員が連携して効率化を念頭に置いて取り組めた。ただし、行事の要項の変更点等の連絡、周知徹底に課題が残った。部活動については、部活動に係る活動方針を策定して課題解決のための対応を行った。
	学校・保護者・地域社会等の連携とその充実を図る。	創立124年目を迎え、教育目標達成のための思いを新たに、学校の教育活動全般について更に情報発信するとともに、保護者・地域社会の理解と協力を得て、学校の活性化に繋げる。	様々な情報手段を活用して、学校の活動を積極的に発信していくとともに、学校教育及び商業教育の活性化の方策を探る。	HPの更新、報道機関への資料提供、校長室だより等を発行し、情報提供する。また、育友会とのより良い協力態勢づくりに努める。	A	学校行事や生徒の活躍等の情報発信をHPの更新を随時実施した。学校行事において育友会の皆様の支援をいただき、教育活動への御理解を深めていただくよい機会となった。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学力向上	学力の充実を図る。	各人の学習目標を明確にさせ、予習復習の徹底を図り、家庭学習時間の確保を促す。	学習意欲を高め、学習の習慣化を図り、達成感を持つことができるよう促す。	定期的な生活時間活用調査を実施し、時間の大切さを自覚させると同時に有効かつ効果的な学習方法を身に付けさせる。	A	生活時間調査を毎学期実施して、生徒の生活全般を改善するための資料として個別指導に活用できた。生徒自身も手帳を活用してタイムマネジメント能力が向上している。
		「黙学」の有効活用を図る。	8:35までに入室・着席し、1日のスタートにふさわしい、ゆとりある学校生活を送れるように心身を落ち着かせる。	適切な課題(新聞スクラップ、検定・小論文対策等)を課すとともに、着席指導を行うことで、主体的に学習する意欲を高める。	A	スモールステップの学習課題を計画的に実施することでモジュール学習のように朝の時間を活用できた。また、黙学を通じて1日の学校生活を落ち着いて開始できる効用も継続している。
	授業内容の充実を図る。	言語活動の充実を進めながら、生徒の学習意欲を高める授業を実施する。	公開授業を軸に教科内・外の研修を深める。特に、教科会を充実させ、担当者間の連携・連絡を密にし、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫・改善に努める。	分かる授業確立のため、学期1回以上の研究授業体制を整備し、各教科年間3回以上の研究授業を実施。更に教科の垣根を超えた公開授業を実施し、主体的かつ対話的な深い学び等の教授方法を研究する。	B	公開授業週間および研究授業を各学期に実施できた。教科の枠をこえて指導方法を学ぶ機会となり指導力向上に有益な取組であった。ただし、平日の取組であるため校外からの参観者の増加を今後も期待できない。外部評価の確保、本校の学習指導体制への理解を深める手立てとして実施方法が課題である。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の視点に立った基礎的・汎用的能力を育成する。	生徒に進路決定のその先の目標を見出させる指導を行う。	生徒一人ひとりが社会における自己の役割を自覚し、自己の能力や適性、可能性に気づき、生涯の人生を見通した中で進路について考えるよう促す。	進路LHRや集団進路指導において、社会の情勢や人間としての在り方生き方を踏まえた幅広い情報を提供し、自己の将来像から逆算的に進路について考えるよう啓発に努める。	A	学年ごとにテーマを設けて、講演、大学訪問、インターンシップ等の体験活動も交えて進路意識の高揚や情報提供を実施できた。進路学習後に、自己を見つめ将来について真剣に考える態度を持続できるような日常の支援も今後充実させたい。
		学習をはじめとする諸活動の“意味”を、将来とのつながりで理解させる指導を行う。	各教科をはじめ教育活動全体を通して、知識や経験の汎用性を実感できるような指導に努める。	生涯に渡る生活で、今の学びがどのように生きてくるのかを意識した授業展開・活動づくりに努めるとともに、教師一人ひとりが人間としての在り方生き方を踏まえた学習活動の意味を丁寧に語り、伝える。高大連携の中で大学見学等を実施し、学びの継続性や将来の可能性について啓発を図る。	A	社会の課題に自らがどのように係り、社会参加や自己実現を果たしていくかを念頭に置いた学習指導を初めとした教育活動を展開できた。例えば、熊本学園大学との高大連携事業は、生徒の学ぶ意欲を刺激し、自己の進路を深く考える良い機会になった。今後も生徒の主体的な学びを喚起する取組を積極的に実施したい。
	生徒一人ひとりの進路実現を支援する。	生徒の能力・適性を把握した適切な支援により、進路目標の実現を図る。	生徒一人ひとりの進路決定までの過程を大切にし、就職・進学ともに考えさせる指導を工夫する。 ① 就職内定率100%を達成する。 ② 国公立大学合格者20名以上を目標の核とし、大学進学者数を100名以上にする。	・「面談力」を高め、生徒が目標を高く持ち、自己の可能性を切り拓くため、意欲的に進路決定に取り組むように導く。 ・生徒一人ひとりの「キャリアジレンマ」に丁寧に対応し、必要な情報提供や支援を行う。 ・各試験対策として進学課外、就職課外、公務員課外を実施する。	B	個々の生徒の進路目標の設定から達成までのプロセスに適切な支援ができるように、外部研修会への参加やその復興を通じて全職員で指導力向上に努めた。キャリアサポーターとの連携による企業情報の提供、目標達成のための学力向上を進路別に丁寧に指導した。その結果、就職希望者は就職内定率100%を達成した。また、進学希望者も目標値に対して8割程度達成した。今後、センター試験等を利用した受験者数を増やすことが目標達成に必要な方策である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒指導	外面的生徒指導の充実を図る。	規範意識の高揚を図る。	・時間厳守を徹底する。 ・校則を遵守する。 ・情報モラル教育の充実を図る。 ・配慮を要する生徒の確実な把握。	・黙学と運動させながら、遅刻者数の減少を図る。 ・整容検査を適宜実施し、違反者減に努める。 ・携帯電話のマナーや適切な使用方法について、学期に1回全体指導を行う。	A	熊商生としての自覚の上に順法精神を身に付けることができた。携帯電話の使用についても、企画した全体指導に加えて、全職員による時機を見た指導により、マナーを守り有益に利用できている。
		個に応じた多様な指導支援に努める。	交通安全並びに自転車の盗難防止に努める。	・自転車運転マナーを徹底する。 ・自転車の二重ロックを徹底する。	B	命を守るために重点的に指導を継続したが、負傷を伴う事故が発生した。交通安全については、多面的に意識の高揚を図りたい。
	内面的生徒指導の充実を図る。	不登校・問題行動を起こす生徒への適切な対応に努める。	・不登校や問題行動の兆候を見逃さず早期把握に努め、学年をはじめ、教育相談部・保健部及びスクール・カウンセラーと連携を図る。 ・職員全体の共通理解のもと適切な指導を行う。 ・「命を大切に作る心」を育む指導プログラムの取組を通して、命の大切さを常に意識した判断や行動ができる生徒の育成を図る。	・マナー・モラル教育を実施する。 ・全校集会時において、思いやりの心がいかにか大切であるかを生徒に訴えかけ、心の教育の充実を図る。 ・担任と生徒との二者面談を行い、生徒個々の内面を聞き出す。 ・生徒会主催の「心のきずなを深める集会」を実施し、「恕」の心を育成する。 ・各教科、ホームルーム活動や全校集会、講演会、黙学等、組織的系統的に各取組を実施する。	A	相手を傷つける不適切な言動は、指導の成果で激減した。しかし、なにげない言葉に思い悩んだ生徒は少なくなかった。そのような生徒に担任は、教育相談部やカウンセラーと協力して該当生徒の心の健康回復に努めた。また、「心のきずなを深める集会」では、生徒がきつい思いをしている仲間を中心に考えて接する態度を育むことができた。さらに、人権教育とも連携して、学級ごとに努力目標を掲げて人権意識の高揚にも努めた。
		校門一礼を促し、さらに愛校心を育てる。	・風紀委員と連携を図り、自然な一礼の雰囲気づくりを行い、100%を目指す。	・毎月10日に調査を行い、全校生徒に発信していく。 ・育友会との連携を図る。	B	ほぼ全員の生徒が校門一礼を実践している。生徒の愛校心は、校内の美化等の日常生活の随所に体现されている。
人権教育の推進	生徒も教師も「差別は許さない、見過ごさない」人権感覚の向上を図り、人権を尊重する学校づくりを目指す。	生徒人権委員会の活動を活性化させるとともに、人権・同和教育推進委員会の機能も活性化させ、学校総体で人権教育に取り組む。	・不合理な差別に気付き、指摘できる力を付ける。 ・生徒同士、職員間における仲間づくりを推進し、学校における差別事象をゼロにする。	・啓発活動(朝の放送、生徒人権委員会、人権・同和教育推進委員会、メッセージボード、資料提供など)を継続的に行う。 ・特に職員の言葉かけのスキルを高める。	A	教師や外部講師からの働き掛けや生徒の自主的な活動により反差別の集団として成熟しつつある。ただし、仲間づくりを阻害するような言動が無意識のうちになされることもある。したがって、さらに深く考えて相手を思いやる心を育む必要がある。
	人権教育を計画的に行うとともに、進路の保障に努める。	3年間を通した人権教育を展開する。授業の創造(分かりやすい授業づくり)に各教科で取り組む。	・身近な人権課題への認識と過去の差別の現実深く学ぶ。 ・言語教育とコミュニケーションを中心とした、生徒が楽しく学ぶ環境をつくる。	・被差別当事者の想いに寄り添うことができるようにする。 ・研修会の開催・参加を図るとともに、資料提供による知識の更新や蓄積を図る。	B	研修会へ積極的に参加して当事者意識の高揚と共に指導力の向上を図ることができた。情報の共有化も進め、生徒への指導改善も進んだ。
いじめの防止等	いじめを許さない学校づくりといじめを「しない」「させない」生徒の育成を図る。	いじめの早期発見に努めると共に、お互いを思いやり、自他の生命を大切にする心を育てる。	・いじめの兆候を見逃さず、定期的なアンケートや個別面談等を通して、早期把握に努め、学年、教育相談部、保健部等と連携し組織的な対応を行う。 ・家庭との連携を深める。	・本校で定めた「いじめ防止基本方針(改訂版)」に基づき組織的に対応する。	A	アンケート調査、面談週間を計画的に実施したことに加えて、全職員で生徒を常に温かく見守りいじめを見逃さない教育環境の整備に取組んだ。さらに、生徒の相談に組織的に対応して問題の長期化や深刻化を防いだ。
		いじめ防止等の年間計画に基づいた取組を実施する。	いじめのない学校づくりに生徒の主体的な参画を促す。	生徒会による「いじめをなくす」ための校内放送等を活用し、生徒たち自身が話し合い、意見を出し合う中で、いじめを無くす集団を育てる。	A	生徒の主体的な活動により、いじめ撲滅の意識を高揚させることができた。
	いじめだけではなく、深刻な悩みや課題を抱えている生徒の支援を目指す。	気になる生徒の早期発見に努めるとともに、生徒自身がお互いを思いやる「恕」の心を育てる。	学年部と保健部・教育相談部との連携を強化することで、兆候を見逃さず、職員の共通理解のもと適切に対応する。	教育相談部会において、気になる生徒への指導並びに支援体制について、学年連絡会を通して周知することで、組織的な対応を図る。	A	教育相談部、学年会、スクールカウンセラー及び管理職との連絡体制が円滑に機能して、事態を深刻化、長期化させることなく問題を解決できた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	防災教育の推進と地域連携 豊かな人間性と健全な心身の育成を図る。	熊本地震を教訓に防災教育の充実に学校総体として取り組む。本校の伝統を継承しながら、保護者や地域住民の意見を学校運営に反映させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	・想定外の災害に対しても冷静かつ安全に行動する姿勢を身に付ける。 ・「学校運営協議会」において、具体的な取組等の研究を進める。 ・学校行事として実施する、販売実習を充実させる。 ・地域の商店街の活性化を題材とした研究を進める。 ・復興支援事業への協力を推進する。 ・幼稚園実習の内容を充実させる。	・年2回の避難訓練の実施 ・防災マニュアルの更新 ・各教科の教育目標に防災教育を位置づけ、年間1時間程度の実施を目標とする。 ・熊商デパートの実行委員会において内容のリニューアルを図る。 ・水前寺公園商店街の活性化について地域の連携を深める。 ・益城復興支援事業の充実のために商工会との連携を深める。 ・神水幼稚園における実習について、連携を深めることにより充実を図る。	B	校内の避難訓練は、雨天時対応で2度実施した。地域や行政と連携した避難訓練も実施できた。さらに、生徒の防災意識を持続させるために、各教科の指導においても防災関連の学習を実施した。防災食の備蓄も実現したので、今年度も学校防災の体制づくりは前進している。 地域との連携による学習活動については、関係者の御協力により、専門性と共に特に主体的に学ぶ姿勢を身に付ける最良の学習の場となった。生徒は、授業中の机上の学びを実社会で活用することで、以後の学びの目的意識や意欲を高めることができた。
商業教育の充実	商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	ビジネスの理解力・実践力を評価する方法として、資格取得に向けた指導を強化する。	生徒が主体的に資格取得について目標を立てることができるよう導き、その達成を目指す。	・生徒個々の学力に応じた指導や授業内容の充実、改善、主体的かつ対話的な深い学び等を取り入れた魅力ある授業実践を図るため、担当者間の連携を深め、各学期に研究授業等を実施する。 ・課外等の補完的授業を通して、生徒の基礎的・基本的な学力が確実に定着するよう指導する。		社会の変容に対応できる実践力を培うために、指導計画、学習指導の改善に取組んだ。その結果、生徒は自ら課題を見出し解決のために主体的に学習に取り組むことができています。ICT機器の活用は、生徒の学習に効果的であるが、プロジェクト等の機器が不足しているので十分な活用ができていないとは言えない。使用上の利便性の向上も含めて教育の情報化の促進に関する課題を解決しなければならない。
	ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ公正に行う能力を育てる。	求められる3つの資質（人間関係能力・社会性・倫理観）を伸長する。	・授業で学んだ専門的知識・技術を試す実践の場を設け、総合的な人間力、資質の向上を図る。 ・体験的な学習を通してビジネスマナーを身に付けさせるとともに、定着指導に努める。	・販売実習である「熊商デパート」への取組みを通して、ビジネスに対する姿勢やコミュニケーション能力の育成を図る。 ・事前の指導や企業研修を通して、ビジネスマナーの必要性について理解させるなど、定着指導を行う。 ・情報モラルについても、情報処理の授業を中心に涵養を図る。	B	社会の変容に対応できる実践力を培うために、指導計画、学習指導の改善に取組んだ。その結果、生徒は自ら課題を見出し解決のために主体的に学習に取り組むことができています。ICT機器の活用は、生徒の学習に効果的であるが、プロジェクト等の機器が不足しているので十分な活用ができていないとは言えない。使用上の利便性の向上も含めて教育の情報化の促進に関する課題を解決しなければならない。
	ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身に付け、ビジネスの諸活動を主体的・合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。	ビジネスの諸活動を主体的、合理的かつ倫理観を持って行い、地域や経済社会の発展に寄与する能力と実践的な態度を育てる。	ビジネス活動に対するグローバルな視点や企画力・表現力を育成する。	・「課題研究」や「商品開発」、「電子商取引」などの学習を通して広い視野を育て、企画力・表現力の向上を図り、ビジネス諸活動の主体的構成者としての資質や能力を育成する。 ・高大連携プログラムやベンチャーマーケットなどを活用した専門性の深化により、将来のスペシャリストの育成を図る。	A	事前事後の学習も含めて、「熊商デパート」による販売実習により生徒のビジネスに関する能力が向上した。また、熊デバKidsと称した近隣小学校と連携した取組も含めて、新しい学習のねらいや方法も実践され新時代の幕開けにふさわしい実習を企画できた。人びとに幸福を届ける生業を学ぶ者として、情報の取扱にも心配りができる態度を育てることができた。

※評価A～Cについては、A・・・達成できた、B・・・概ね達成できている、C・・・課題が残る、を基準に評価した。